

稲の「芽出し」にちょう戦しよう！

5年 名前（

）

5年生の総合では、JAの方に協力していただきながら、バケツの中で稲を作る体験をする予定です。その準備として、みなさんにはおうちで「芽出し」をしてほしいので、説明をよく読んで、芽出しにちょう戦しましょう！

〈配ったもの〉
・稲の種もみ

〈芽出しとは・・・〉
草木が芽を出すこと

深さ3cmほど



この部分にちょう戦します！

- ①底の浅い容器を準備します。（シャーレと書いてありますが、紙パックの底の部分を使ったり、浅めのお皿などを使ったりしてもよいです。）
- ②容器に、種もみがひたるくらいの水を入れます。（多くなりすぎないように注意。）
- ③種もみを水の中へ入れます。

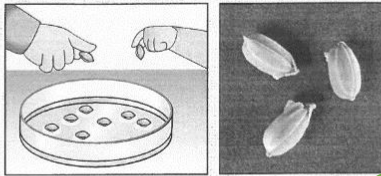
【毎日のお世話】・室内のあたたかい場所に置きましょう。
・水は毎日取りかえましょう。



10日ほどで、こんな風に芽が出てくれるはずですよ(^)

1 芽出し

シャーレなどの浅い容器に種もみがひたるくらいの水を入れます。水にひたした種もみは、室内のあたたかい場所におきましょう。種もみに酸素がじゅうぶんに行きわたるよう、水は毎日とりかえます。

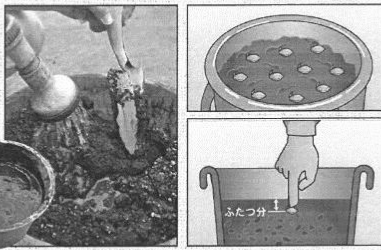


白い芽（鞘葉）が1mmくらい見えたら種まきできるよ！



2 種まき

水とよく混ぜて泥になった土をいれたバケツに、表面に水がたまらないくらいの水を入れます。少し離して種もみをまき、深さ6～7mm（種もみふたつ分）ほど指で押し込み、土をかぶせます。土がかわいたら、土の表面が湿るくらいに水をまきます。

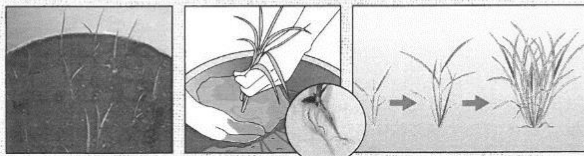


種もみをまいた目をよく見て、深さ5cmくらいのびるまで水をかかれます。



3 苗の移しかえ

葉が3～4枚にふえたら根ごとやさしく苗をぬき、茎が太く育ちのよい苗を4～5本にまとめ、バケツの中心に、2～3cmの深さに植えます。そこに水を1cmの深さに張って、根付いたら5cmの深さに水を張ります。苗を移しかえた後から茎が増えていきます。このような稲の枝分かれを「分けつ」といいます。



稲の背が高くなって倒れやすくなる場合は、支柱を用意しましょう。



4 中ぼし

稲の茎数が20本、草丈が40～50cm程度になったら、1～2日ほど水をぬき、雨が入らない軒下などに移動させます。土とバケツの間にすき間ができたならバケツに水を2cm入れ、なくなったらまた2cm入れます。4回繰り返した後、5cmの水を入れて待ちます。



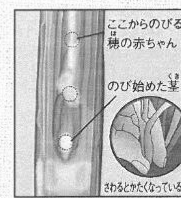
中ぼしをすると、土は酸素を取り込み、根は水を求めてのびるので、じょうぶな稲が育つよ！



中ぼしの注意点

・中ぼしの回数は1回です。
・雨が入らず風通しの良い屋外に移してください。
・深い容器のバケツでの中ぼしは、葉が倒れやすくなります。葉が倒れるまでおぼしなったり、色が黄色くなってると水分不足です。すぐに水を入れて中ぼしを繰り返してください。気温によっては1日で乾く場合がありますので、よく観察しながらいきましょう。

5 お米になる



②つぼみがわれて花がさきます。おしべの花粉がめしべにつき、受精します。

③もみの中のでんぷんが固まって重くなり、穂がたれてきます。

①穂の赤ちゃん（幼穂）ができると、茎がふくらみ、約20日で穂がでます。



■茎がふくらみ始めてから穂が出るまでは5cmの水を保ちます。穂が出た後は3cmの水を保ちます。

6 いね稲かり

稲かりの目安は、穂が出てから40～45日ごろ、穂の約90%が黄金色になったころです。その10日くらい前に水をぬき（落水）、かわかしてから稲をかります。かりとつたら穂を下にして根元をしぼり、風通しがよい場所で10日ほどほします。



稲をほす時も、スズメに気をつけて

